

平成24年度ゆいの会総会開催

— 新たな活動の展開を目指して —



(写真左) 総会風景 (写真右) 総会・研修会終了後、お花見会も開催されました。

第28号

ゆい
し、
結・YUI

ハンセンボランティア ニュース

2012年10月6日 発行
ゆいの会事務局
岡山市北区弓之町1-17 五蔭ビル4階
山本勝敏法律事務所内
電話(086)234-1711
FAX(086)234-8696
編集 則武 透



ゆいの会
ハンセンボランティア

巻頭言

今年6月、第11回ハンセンボランティア養成講座を開催し、あらたにボランティアとして活動してくれる会員が増えました。今回から、ボランティア学の講座は、関西福祉大学社会福祉学部長の平松正臣先生に代わり、同学部講師の菅由希子先生が担当していただけることになり、運営委員も含め新たな気持ちで講義を受けました。平松正臣先生には、第1回から第10回までお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

同じ6月に、都道府県会館で開催された「ハンセン病問題対策協議会」では、ハンセン病療養所における職員削減問題の解決を要求事項として取り上げ、全療協の神美知宏代表は、この問題の解決のためにはハンガーストライキも辞さない決意であることを明らかにし厚労省に決断を求めました。その結果、統一交渉団と厚労大臣との会談が実現し、充実した介護のため、職員の退職などにより賃金職員が定員化された場合にもその後補充をすることなど、この問題の前進に向けての一定の道筋も示されました。

このほか、同協議会では、ハンセン病政策の歴史を後世に伝えるために、新たに健康局長参集の検討会を立ち上げ、国の歴史的建造物の保存等に関する基本的な考え方を可能な限り速やかに整理するよう努めることなどが合意されました。

10月27日には、岡山市内で、長島愛生園と笹川記念保健協力財団の共催で、ハンセン病問題をめぐる歴史を後世にどのように語り継ぎ、そのために今何をすべきかについて、国内外の関係者を招いて国際シンポジウムが開催されることになりました。ハンセン病問題についてどう取り組んでいくべきか、一般市民の皆さんにも一緒に考えていただく契機になればと思います。

ゆいの会 会長 近藤剛



平成24年度 ゆいの会 総会報告

平成24年度ゆいの会総会は、本年4月8日(日)午前10時～午前10時55分までの間、27名が参加して邑久光明園で開催されました。

昨年度は、第10回ボランティア養成講座、夏祭り、ふれあい福祉バザー、歴史館ボランティア・フォロワーアップ研修、忘年会を開催したほか、長島愛生園で、病棟入院者にボランティアと豊かな時間を共有してもらおうと「ふれあいボランティア」が始まり、参加者は延べ111名にのぼりました。歴史館ボランティアでは訪問者160名の案内を行い、個別ボランティアでは、里帰り付添等の園外付添活動を行いました。また、愛生園で戦後活動した文芸協会の創作活動の調査・整理、ゆいの会ニュース第26号と第27号の発行など多彩な活動を展開しました。ゆいの会は健全財政が続いておりますが、会費納入者は増加傾向にあるものの、納入率は50%程度と見込まれます。人事は昨年度と同じ顔ぶれで承認されました。本年度も昨年度同様活発に活動し、ゆいの会リーフレットの作成も予定しています。

総会后、ジャズをとおしてハンセン病問題を啓発した映画「ぶたたび Swing me again」を参加者みんなで鑑賞しました。映画は、一ジャズ・カルテットのトランペッターであった若き主人公が、名門ジャズクラブに出演が決まり脚光を浴

びようとするその時にハンセン病を発病し、カルテットは解散。その後、主人公は療養所で人生の大半を過ごし、余命いくばくもないと悟ったとき、療養所を出て、果たせなかった仲間との演奏の約束を果たすためカルテット仲間を訪ねる旅に出る。最終的に再会した仲間と名門ジャズクラブで演奏することになるが、療養所を出てから演奏に至る過程で様々な偏見差別に出会う。—という内容でした。発病ゆえに失った恋人との回想場面が哀愁を帯びて挿入され、感動を呼び起こす映画になっていました。2時間と長時間ですが、ご覧頂ければきっと映画に入り込んでいる自分に気づくはずですよ。鑑賞中、多数の方のすすり泣きの声が聞こえたのが印象的でした。

映画上映後は、光明園桜並木通りにみんなで繰り出して、満開の桜の花の下でお花見をしました。晴天で暖かく、飛び入りで牡蠣の手巻き寿司が振る舞われるなど、桜を満喫する1日となりました。

静心なく、花の散るらん

古今集 紀友則

ゆいの会 事務局長 山本勝敏

【ゆいの会平成24年度総会 議事録】 総会出席者 27名 委任状提出者 46名

- 平成23年度活動報告
企画部局(出井)・コーディネイト部局(志賀)・歴史館(田村)・ふれあいボラ(志賀)・文芸協会(疋田)・個別対応型(森田)、広報部局(疋田)
川崎医療福祉大学生(熊谷ゼミ)によるテープ吹き込みボラ報告あり。
(質疑) 歴史館ボラ参加者氏名を報告書に記載して欲しいと要望あり(金田)、了承。
- 平成23年度決算報告(岩田) 承認
- 平成23年監査報告(金田) 承認
- 平成24年度活動方針の提案(近藤) 承認
(質疑) 光明園(財)慰安会理事会にゆいの会から理事を出して欲しいと要請あり(畑野園長)。
ハンセン病啓発映画の全国キャラバンを組み入れて欲しいと要請あり(牧野)。
- 平成24年度予算の提案(岩田) 承認
次年度繰越金2,545,407、合計4,003,407に訂正。
リーフレット作成費、啓発活動費を新規事業費として計上する。
(質疑) ふれあいボラ等諸活動に伴うボランティア活動を計上して欲しい(志賀)。
平成24年度予算費目の流用で捻出する。
- 平成24年度新役員選任(山本) 承認
平成24年度人事は次のとおり。
名誉会長牧野正直、会長近藤剛、副会長出井敏雅、事務局長山本勝敏、
事務局(通信)森田千香子、企画部局責任者出井敏雅、同部局員八谷直博・中田智明、
コーディネイト部局責任者田村朋久、同歴史館田村朋久、
同ふれあいボランティア志賀雅子、同文芸協会疋田邦男、同個別対応型森田千香子、
広報部局編集長則武透、会計岩田弘明、監査金田美佐緒

ゆいの会ブログ (ときどき更新中)

当会の活動のほか、ハンセン病問題に関する最新の情報も随時掲載しています。
<http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp/>

第11回ハンセンボランティア養成講座

第11期生 11名が誕生

第11回ハンセンボランティア養成講座に参加して

今回、ボランティア講座に参加させていただき、晴れて11期修了生となりました杉山と申します。

私は、弁護士登録から数えて6年目の岡山の弁護士です。大学生の頃に、縁があつてハンセン弁護団の先生方と長島愛生園を訪問させていただき、ハンセン病政策の実態を初めて知り衝撃を受けました。それ以来、ハンセン病政策や以後の被害回復について関心を抱くようになり、今回ゆいの会のボランティア講座に参加させていただくこととなりました。



(写真)ゆいの会オリエンテーション

第11回ハンセンボランティア養成講座 テーマ・講師(講師敬称略)	
【講座Ⅰ】 6月9日(土)	
○開講式	
①「ハンセン病とは」	講師/愛生園園長 藤田 邦雄
②「ハンセン病問題と療養所の将来について」	講師/ゆいの会会長 近藤 剛
③「歴史館の果たす役割について」	講師/愛生園歴史館学芸員 田村 朋久
【講座Ⅱ】 6月16日(土)	
④「ボランティアを始める前に」	講師/関西福祉大学 社会福祉学部 助教 菅 由希子
⑤「ゆいの会のボランティア実践報告」	講師/ゆいの会ボランティア有志
【講座Ⅲ】 6月23日(土)	
⑥「介護講座」	講師/看護部長 内田真澄、介護長他
⑦「介護実践」(車いす・アイマスク体験) / ⑧園内フィールドワーク	
【講座Ⅳ】 6月30日(土)	
⑨「入所者との交流」 / ⑩ゆいの会オリエンテーション	
⑪講話「ハンセン病について」	講師/邑久光明園名誉園長 牧野 正直
○閉講式・懇親会	

養成講座は4日間にわたって開催されましたが、私が参加できたのは1・2・4日目です。初日の藤田園長、近藤弁護士、田村さんのお話は、これまで多少なりともあつたハンセン病問題の知識をはるかに超えたもので、大変勉強に

なりました。2日目の菅先生の講義では、普段考えたこともない「ボランティアをする動機付け」を考えさせられるきつかけとなりました(やはり「自己実現」???)。4日目には入所者の方にお話しを伺いましたが、これは今回の講座の中では最も印象深かったです。これまで、弁護士会の行事等で入所者の方の講演をお聴きする機会があつたのですが、少人数(この時は入所者の方を含めて5名でした)で、こちらも質問をしたりしながら入所者の方の体験を聴ける機会はなく、大変

貴重なものでした。ありがとうございます。今後、何らかの形でボランティア活動に協力させていただければと考えていますので、よろしくお願ひします。
第11期生 杉山雄一
——杉山さん、ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。今回の養成講座は26名が受講、17名が修了され、このうち11名がボランティアとして登録されました。

ハンセンボランティアニュース 結・ゆい・Yui 第28号

— 目次 —

- 1. 巻頭言 1
 - 2. ゆいの会平成24年度総会報告・議事録 .. 2
 - 3. 第11回ハンセンボランティア養成講座 .. 3
—第11期生11名が誕生—
 - 4. ボランティア活動報告 4-5
 - ① 邑久光明園夏祭り
 - ② 長島愛生園歴史館ボランティア
 - ③ ふれあいボランティア
 - 5. 田村さんの「歴史館だより」 6
歴史館来館予定者
 - 6. お知らせ 6
 - 芋煮会を開催します!
 - ハンセン病問題のこれからを考える国際シンポジウム
 - 生きてきた証を受け止めて
- ハンセン病療養所入所者等社会復帰支援員活動10年の歩み—

ボランティア実践報告

ゆいの会では、たくさんボランティアが様々な活動に参加しています。今回は、活動に参加された方からゆいの会メンバーリストに寄せられた活動報告をご紹介します。

邑久光明園

夏祭りボランティア参加報告

8月2日(木)、第38回邑久光明園納涼夏祭りへ行ってきました。

午後1時に光明園福祉会館に着くと、すでに近藤会長さん、ゆいの会スタッフの人たち、それに神戸大学ボラバンのみなさんがお揃いでした。さっそく「わたしの作るおにぎりの大きさをよう見とられよ。大きさをまちがえたら、予定の数ができなかった去年のようになるんじゃない」と、先輩スタッフの方から指導を受けました。うめぼし、おかか、鮭、のりたまなどの具を入れながら、黙々とおにぎり作りを続けました。3時には、およそ60個のおにぎりが完成しました。先輩スタッフの方は、「今年の学生は、かわいいなあ。わたしの言うことをよく聞いて、やってくれたわあ。」と、おっしやり、とても満足された様子でした。

5時から、夏祭り会場で綿菓子販売の準備に取りかかりました。まわりを見ると、中央舞台や出店のまわりに多くの方が続々と集まって来られます。5時30分の開店後、記念すべき初めてのお客さんは、「昔懐かしい、綿菓子じゃなあ。」とおっしゃる女性の入所者さんでした。それから、幼い子から小・中学生が列をなし、お客さんは絶えませんでした。子どもたちは、近藤会長さんや鈴木さん、神戸大学ボラバンの手助けを受けながら、わりばしをクルクル回しながら自分で綿菓子を作っていました。カメラを持った家族に見守られながら、少し緊張した面持ちの子や余裕たっぷりの子もいたりして、とてもほほえましい光景でした。そうこうしていると、「去年は綿菓子作りを失敗したので、リベンジにきました。」と、言われながら武久瀬戸内市長さんが来てくださりました。今年はとてもうまくできました。8時から、満月の夜空に大きな花火が次々と打ち上



(写真)子どもたちに人気のセルフ綿菓子

がり、歓声が響き渡り、夏祭りは最高潮となりました。やっぱり、花火は夏祭りの華となりました。おかげで、今年の綿菓子販売の売り上げは1万2000円を超えました。さつきく自治会へ届けていただきました。大成功の綿菓子販売となりました。

10期生 藤原準三

長島愛生園

歴史館ボランティア参加報告

4月20日(金)時折、また雨が降るなか、3名で歴史館対応をいたしました。田村さんは、傘をさしながら、園内を1時間、2回廻りました。雨の中、ご苦労様でした。私たち、青江・斉藤・疋田は、歴史館での説明担当です。グループが85名と多人数なので、1階のジオラマの前と2階の証言映像室を使い、2グループに分けての説明です。

私が、引率してジオラマの前に行くとなんと今年84歳の宇佐見さんがお迎えをしてくれていました。これは予定されていない行動です。2回目の説明が終わる、11時30分頃、職員の方が宇佐見さんを探しに来られました。宇佐見さんはどこにいるだろうか、もう食事の時間なのに、どこにいるだろうか？と。

私は、今回初めて、その宇佐見さんと「コラボレーション説明」に取り込んで見ました。ジオラマの赤い線(境界線)の説明です。「ここに赤い境界線がありま



(写真)園内フィールドワーク

す。実際は、赤い線はありません。当時は、立ち入り禁止立て札がありました。」と私が導入説明をします。次に、宇佐見さんが受けて、「この立て札は、何回も入所者の人が抜くので、最後は横に置いてありました。」と当時の様子を語ります。また、「ここはジオラマに自殺場所と明記されています。その場所では、当時は・・・。」と修学旅行の中学3年生徒の前で、力強く当時の様子を生々しく語りました。

2階の証言映像室では、石田さんの奥様の13分の証言映像を見ました。奥様は、最後に「私たち夫婦にはこどもがいまません。そのため、最初私は子どもと、どう接したら良いのか解りませんでした。でも、長島に来る子どもさんと接していると、子どもさんの自然な対応から、今では自然と接することが出来るようになりました。」と静かに語りまし(次頁に続く)



(写真)ふれあいボランティアの会場を彩る季節の壁面

た。私は、この静かな語りの中に、ハンセン病問題として深く、私たち日本人が人間としてしてはいけないことをしたのだと思いました。

今回は、修学旅行ですので、最初に開園式、最後は閉園式という儀式があります。その閉園式の構成は、司会者により礼、生徒代表挨拶、田村学芸員のお話、石田ご夫妻のお話、礼、諸連絡でした。

最後の諸連絡で引率の先生は、「来るときに渡った邑久・長島大橋は、今日の勉強で『人間回復の橋』と入所者の人が呼んだ気持ちで理解できたと思います。そして、これから帰りのバスでこの橋を渡ります。その橋は、私たちにとつても『人間回復の橋』でないかと思えます。その意味をみんなに考えて欲しいと思つていきます。」と伝えていました。

私たちボランティアにとつても、長島でこの鳥取県箕鏡屋中学校の修学旅行に

参加させて頂き、学ぶことが多くあった歴史館対応でした。まだ、時折雨がぱらつく天候が不順な日でしたが、実りの多い長島の1日でした。

6期生 正田邦男

長島愛生園

ふれあいボランティア参加報告

大先輩の金田さんと一緒に、初めて参加させて頂きました。できるだけろうか・少し不安な思いで向かいまして、14時開始の15分前に福祉棟前で待ち合わせでした。途中のコンビニに光明園の夏祭りのお知らせが貼ってありました。そこでおにぎりを買って、少し早めに到着しました。時間まで木陰の駐車スペースでおにぎりをほおばつておりましたら、金田さんが車まで来てくださり、病棟内の部屋に向かいました。本来ならば、まず管理等の師長室で挨拶を受け取るプロン・名札・活動報告綴を受け取るそうです。金田さんにコーヒーマーカーなど器具を出すなどの手順を教えてくださいいただき、準備をすすめました。やかんの水をこぼしてしまう失敗をし、金田さんによけいな手間をおかけしてしまいました。コーヒーマーの準備は金田さんがしてくださったので、テーブルの上を拭いたりCDをかけたたり、と、なんとかできることをこなし、14時すぎにお迎えする準備が整いました。添われ

ていらつしやいました。おやつチョコケーキをもってこられ、コーヒーマーを一つつけて、看護師さんにスプーンで一口ずつ飲ませてもらいながら、味わっておられました。次にBさんがこられ、「どこから来たの？」と尋ねられました。「瀬戸大橋をご存知ですか？」と回答する児島という町から来ました。」と回答しましたが、よく解らない様子でした。Bさんは、仙台のご出身だそうです。その後なにをお話しようかと思つたところに、「コーヒーマーのいい香りがする。」と賑やかにおしゃべりしながら、CさんとDさんが看護師さんと3人でいらつしやいました。お二人は、おしゃべりのコンビネーションがよいのだと、Dさんが、お話ししてくださいました。Cさんは、人形を100体も作られたそうです。また、陶芸もされるなど、とても器用な方だと、これまた、Dさんが話してくださいました。Cさんは、ときどき相槌をいれながらコーヒーマーを飲んでおられました。そこに、Eさんがこられました。Eさんは、10人兄弟だそうです。2回骨折をして、それから体調がわるく、現在入院をしておられるそうです。Eさんが来られてからも、Dさんがいろいろお話ししてください、奥さんと結婚されたこと、旅行にいかれたこと、以前は楽しかったことなど、いろいろなお話を聞きました。次にFさんがこられ、最後にGさんがこられました。思つたより、たくさんの方が来てくださり、私は、Dさんのお話を聞くのがせいっぱいでした。Fさんは、子

どもの頃、おやつ時間があつたこと、愛生園に来られた時は、つらかったけど、保管係をする事になって皆に大事にされたことなど金田さんに話されたそうです。コーヒーマーを飲まれた後も、雑誌を読んだり、窓から外を眺めたりして過ごされ、あつという間に2時間がすぎ、皆さん帰って行かれました。すでに、カップなどは、金田さんが洗ってきただけです。後片付けをした後、報告書に記入して、看護師長室によつて、ご報告をし、帰途につきました。よくお話をしてください方、口数の少ない方、そしてコーヒーマーもとろみをつけないと飲めない方、熱いと飲めない方、すべて、初めてのことで、どのようにお話を聞きつけてゆけばよいのか、よく解らないまま、逆に下手な聞き手を気づかすお話ししていただいた気がします。金田さんにも、いろいろお話ししていただきました。ありがとうございました。

11期生 藤井 恵美

★メーリングリストのご案内★

皆様との情報交換のために、メーリングリストを設けています。ぜひご参加下さい。ご参加希望の方は「ゆいの会ML登録希望」であることを明記し、登録アドレスとお名前、簡単な自己紹介をお書き添えて、下記アドレスにメールをお送りください。

登録はコチラから↓
hvlit-owner@yahooogroups.jp

田村さんの「歴史館だより」

夏の暑さが一段落し、朝晩過ごしやすくなりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

長島愛生園歴史館ではこの夏も多くの見学者をお迎えすることができ忙しい日々が続きました。引き続き秋の研修シーズンが始まりますのでまだまだ気を抜くことは出来ません。入所者の高齢化は着実に進行しており、ここ数年は入所者を講師とする園外での講演会活動に影響が出てきました。代役として私が出向くことも多くなってきたのですが、その間はどうしても歴史館を留守にしなければなりません。より一層の啓発事業の充実のためにも留守の際は皆様方のご協力をよろしく願います。

2012年10月27日(土) 10:00よりアークホテル岡山において、翌28日(日) 13:40より岡山国際交流会館において、それぞれシンポジウムを行います。こちらへのご参加、ご協力も重ねてお願い申し上げます。

長島愛生園歴史館

学芸員 田村 朋久

e-mail: jtkikai@mx32.tiki.ne.jp

歴史館来館者予定 (10月～)

ゆいニュース発行時点で案内ボランティアに対応依頼が来ている団体です。

10月6日(土)	30名	11:00～歴史館見学
	20名	13:00～歴史館 14:00～園内見学
10月13日(土)	20名	13:00～歴史館 14:00～園内見学
10月21日(日)	40名	10:00～歴史館 11:00～園内見学
	30名	13:00～歴史館 14:00～園内見学
11月4日(日)	人数・時間未定	1件
11月18日(日)	人数未定	15:00～歴史館見学
11月24日(土)	80名	9:00～歴史館 10:00～園内見学
12月1日(土)	30名	13:00～歴史館 14:00～園内見学
12月2日(日)	30名	13:00～歴史館 14:00～園内見学

案内ボランティアを始めたい方、興味はあっても難しそう…とためらっておられる方、他のボランティアの方の案内を見学していただくことも可能です。ご相談ください。

※ 予定は変更の可能性あります。詳しくはゆいの会ボランティアメンバーリストにて、登録はコチラから→ hvl-t-owner@yahoogroups.jp

～ 年会費納入のお願い ～

ゆいの会の活動は、会員からの年会費(年間2,000円)と、協力者の方からの寄付金によって支えられています。

<振込先>

ゆうちょ銀行からの振込は

記号 15490/番号 33536171

他の金融機関からの振込は

金融機関コード 9900/店番 548/預金種目 普通
店名 五四八(ゴヨウチ)店/口座番号 3353617

※振込手数料は各自ご負担下さい。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。

【編集後記】

台風一過、気がつけば、もうすっかり秋ですね。芸術の秋・学問の秋・食欲の秋それぞれに楽しい季節ですが、まずは冷たい秋風(風邪)には要注意です。皆さま、くれぐれもご自愛くださいませ。

(25)

☆お知らせ☆

食欲の秋・学問の秋にぴったりな催しです。ぜひご参加ください。

◇芋煮会を開催します！

平成24年11月3日(土・祝)

☆長島愛生園にて、芋煮会を行います。

秋の味覚を大なべで煮込みながら、入所者の方々の交流を深めましょう。

詳細はメンバーリスト等でご案内します。

◇ハンセン病問題のこれからを考える国際シンポジウム

平成24年10月27日(土)午前10時～

アークホテル岡山 3階 牡丹の間

☆各国のハンセン病問題について学び、今、私たちが何をすべきか、一緒に考えてみませんか。

(詳細は同封のチラシをご覧ください)

◇生きてきた証を受け止めて

―ハンセン病療養所入所者等社会復帰支援員活動10年の歩み―

平成24年10月28日(日)午後1時40分～

岡山国際交流センター 地下1階

レセプションホール

☆長島愛生園・邑久光明園で社会復帰支援員として活動してきたソーシャルワーカーの10年の歩みを振り返る報告会です。

(詳細は同封のチラシをご覧ください)